

# 鉄道利用策 10代の提案

## アプリでポイント付与/デザイン性高い切符



三次駅を訪ね、利用状況について駅員（右端）から説明を聞く生徒（2021年7月19日）



鉄道の利用促進策を生徒が提案した発表会（21年12月20日）

### 三次高2年 半年かけ勉強・調査

三次高（三次市南畑敷町）の2年生17人が、JR芸備線と福塩線の利用促進策を考える活動に、半年間にわたって取り組んだ。同校で発表会を開き、JR西日本や市の関係者から講評を受けた。（石川昌義）

案もあった。12月中旬に開いた発表会には、福岡誠志市長たちが参加。実現可能性や独創性などの観点から

生徒は4班に分かれて発表した。スマートフォンのアプリを使った列車利用者へのポイント付与や、三次駅構内の空き店舗を起業希望者のチャレンジショップに活用するなどのアイデアを提案した。先進地の事例や三次駅の利用者数の推移も調査し、提案内容に盛り込んだ。

ら、沿線の過疎化や少子化で利用が低迷しているローカル線への関心を高め、今後の施策に生かそうと、同校と市、JR西が連携した。昨年6月から勉強会を重ね、市職員やJR社員から鉄道利用の現状について説明を受けた。

デザイン性の高い切符の販売や、つり草を模したパンの販売などユニークな提案を学びながら、地域の課題を学びながら

公共交通の活性化策のコンサルティング業務に携わる地域未来研究所中国四国事務所（広島市南区）の田中雅宣所長は「地域との関わりだけでなく、コストや希少性を意識した提案が多い」と評価。三次駅の中崎一駅長は「芸備線を元気にしようという意欲を感じた」と受け止めた。

同校によると、全校生徒約480人のうち80人ほどが列車通学している。甲立駅（安芸高田市甲田町）から芸備線を利用する藤井彩花さん（17）は「風景を眺めながら登下校する時間が好き。乗って楽しい、インパクトがある路線になればいい」と期待していた。